住友化学株式会社

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	マラソン乳剤
会社名	住友化学株式会社
住所	〒104-8260 東京都中央区新川2-27-1
担当部署	アグロ事業部　お客様相談室
電話番号	0570-058-669

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	**引火性液体**	区分３
健康に対する有害性	**急性毒性（経口）**	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼刺激性	区分２Ａ
	皮膚感作性	区分外
	発がん性	区分２
環境に対する有害性	**水生環境急性有害性**	区分１
	水生環境慢性有害性	区分１

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

ＧＨＳラベル要素

シンボル　炎　感嘆符　健康有害性　環境

注意喚起語　警告

危険有害性情報
引火性液体および蒸気
強い眼刺激
発がんのおそれの疑い
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き
【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
指定された個人用保護具を使用すること。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器および受器を設置すること。アースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断/手当を受けること。
火災の場合、消火に二酸化炭素、粉末、乾燥砂、ＡＦＦＦ(水性膜泡消火剤)を使用すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当てを受けること。
漏出物を回収すること。

【保管】

施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。冷所に保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業

３．組成及び成分情報

単一製品･混合物の区別　混合物
農薬の種類名　ﾏﾗｿﾝ乳剤
有効成分
化学名（一般名）　ｼﾞﾒﾁﾙｼﾞｶﾙﾍﾞﾄｷｼｴﾁﾙｼﾞﾁｵﾎｽﾌｪｰﾄ（ﾏﾗｿﾝ）
化学特性　$C_{10}H_{19}O_6PS_2$
含有量(純度)　50.0%
官報公示整理番号　**化審法**　(2)-1963　　**安衛法**　非該当
CAS番号　121-75-5
その他成分　界面活性剤　有機溶剤　等
含有量　50.0%

危険有害成分	PRTR法	安衛法 通知対象	毒劇法	CAS番号	含有量
ﾏﾗｿﾝ	1種197	268(≧0.1%)	非該当	121-75-5	50.0%
ｷｼﾚﾝ	1種80	136(≧0.1%)	劇物(原液)	1330-20-7	18.4% (代表値)
ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	1種53	70(≧0.1%)	非該当	100-41-4	18.4% (代表値)

４．応急措置

吸入した場合　被曝者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。速やかに医師の診断を受ける。呼吸が弱かったり、止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保

	した上で酸素吸入または人工呼吸を行う。呼吸をしていて嘔吐がある場合は頭を横に向ける。意識がない場合は口から何も与えてはならないし、吐かせようとしてはならない。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を水又は微温湯で流しながら洗浄する。外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は、直ちに医師の診断を受ける。
目に入った場合	清浄な水で最低15分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の診断を受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
飲み込んだ場合	水で口の中をよく洗浄する。コップ1～2杯の水または牛乳を与え、胃内で薄めてもよい。体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。直ちに医師の診断を受ける。必要に応じて人工呼吸や酸素吸入を行う。呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横に向ける。意識がない場合は、口から何も与えてはならないし、吐かせようとしてはならない。
応急措置をする者の保護	救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグル、マスクなどの保護具を着用する。汚染された衣類や保護具を取り除く。
医師に対する特別な注意事項	ﾏﾗｿﾝの解毒剤としては硫酸ｱﾄﾛﾋﾟﾝ製剤及びPAM(2-pyridine aldoxime methiodide)製剤が有効である。

５．火災時の措置

消火剤	二酸化炭素、粉末、乾燥砂、ＡＦＦＦ(水性膜泡消火剤)(初期火災)泡消火剤、水噴霧、ＡＦＦＦ(水性膜泡消火剤)（大規模火災）
使ってはならない消火剤	特に無し
特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素の他、硫黄酸化物等の有毒ガスが含まれる恐れがあるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意する。消火水が河川等に流入しないように気をつける。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は可能な限り風上から行う。火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。燃焼または高温により有害ガス（一酸化炭素、硫黄酸化物等）が発生する恐れがあるので、呼吸用保護具を着用する。容器周辺が火災のときは、容器を安全な場所に移動する。移動ができないときは、容器に注水して冷却する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。 周辺が火災で容器を冷却できないときは、爆発する恐れがあるので退避する。注水には安全な距離を確保し、遮蔽物を利用する。
消火を行う者の保護	消火作業は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。必ず適切

な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項保護具及び緊急時措置　屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ミスト、ガスを吸入しないようにする。風下の人を退避させ、風上から作業する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。こぼれた場所は滑りやすいので注意する。

環境に対する注意事項　漏出物を河川や下水に流してはいけない。

回収･中和並びに封じ込め浄化の方法・機材　少量の場合には、土砂、バーミキュライト、ウェス（製品の性状に適したものを指定する）のような吸収材で直ちに吸着させて密閉できる容器に回収する。残りは洗剤と水でよく洗浄する。大量の場合には盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。使用した吸収材、洗浄水は全て密閉できる容器(廃棄物入れ)に回収する。(処分は「廃棄上の注意」の項に従って行う。)

二次災害防止策　特に無し

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　換気のよい場所で取扱う。屋外で取扱う場合は、できるだけ風上から作業する。取扱い場所には関係者以外の立入りを禁止する。取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼および身体洗浄を行うための設備を設置する。着衣、皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用して取扱う。
休憩場所には、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔などをよく洗い、うがいをする。また、休憩場所には汚染された保護具を持ち込んではならない。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。加熱したり、摩擦、衝撃を与えない。工具は火花防止型のものを用いる。火気厳禁。

注意事項　容器を転倒、落下させる、引きずるまたは容器に衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。全体換気設備のあるところで取扱う。

安全取扱い注意事項　特に無し

保管

保管条件　直射日光を避け、冷暗所に保管する。容器を密閉し、異物の混入を避けて、通気のよい場所に保管する。火気厳禁。

技術的対策　通風をよくし、蒸気が滞留しないようにする。可燃物を近くに置かない。火気、熱源より遠ざける。

混触禁止物質　情報無し

容器包装材料　情報無し

８．暴露防止及び保護措置

設備対策　取扱いの際はできるだけ密閉された装置、機器、または局所排気装置を使用する。取扱い場所の近くに、緊急時に洗身シャワー、手洗い、洗眼を行うための設備を設ける。機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

許容濃度
管理濃度　[ｷｼﾚﾝ] 50 ppm
日本産業衛生学会(2010年度版)
[ﾏﾗｿﾝ] 10 mg/m^3 (経皮吸収)
[ｷｼﾚﾝ] 50 ppm　217 mg/m^3 (TWA)
[ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ] 50 ppm　217mg/m^3
ＡＣＧＩＨ(2010年度版)
[ﾏﾗｿﾝ] 1 mg/m^3 (経皮吸収)
[ｷｼﾚﾝ] 100 ppm (TWA) 150 ppm (STEL)

保護具
呼吸器の保護具　農薬用マスク、防護マスク
手の保護具　不浸透性手袋
目の保護具　保護眼鏡、防災面
皮膚及び身体の保護具　保護服、帽子、ゴム等の前掛け、長靴等

適切な衛生対策　発散した蒸気・ミストを吸い込まないように適切な保護具を着用して取扱う。作業環境管理を厳密に行う。

９．物理的及び化学的性質

外観等
物理的状態　液体
形状　可乳化油状
色　淡黄色透明
臭い　情報無し
ｐH　3-7 (10%希釈液)
引火点　30.8℃ (ﾀｸﾞ密閉式)
燃焼限界－上限(%)　情報無し
燃焼限界－下限(%)　情報無し
比重（相対密度）　1.06-1.08
溶解性　水：乳化する
その他のデータ　特に無し

１０．安定性及び反応性

安定性	通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。
危険有害反応性	情報無し
避けるべき条件	情報無し
混触禁止物質	情報無し
危険有害な分解生成物	燃焼により、一酸化炭素、硫黄酸化物等が発生する恐れがある。

１１．有害性情報

急性毒性	経口（ラット）LD_{50}：♂ 3388 mg/kg　♀ 2746 mg/kg 経口（マウス）LD_{50}：♂ 1719 mg/kg　♀ 1960 mg/kg 経皮（ラット）LD_{50}：♂♀ >2000 mg/kg
皮膚刺激性	（ウサギ）：刺激性あり
眼刺激性	（ウサギ）：刺激性あり
皮膚感作性	（モルモット）：感作性なし ただし、かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
生殖細胞変異原性	情報無し
発がん性	発がんのおそれの疑い（エチルベンゼン：NITEの分類による）
生殖毒性	情報無し
特定標的臓器･全身暴露（単回暴露）	情報無し
特定標的臓器･全身暴露（反復暴露）	情報無し
吸引性呼吸有害性	情報無し
その他のデータ	情報無し

１２．環境影響情報

生態毒性	（コイ）	LC_{50}(96hr)	28 mg/L
	（オオミジンコ）	EC_{50}(48hr)	0.0026 mg/L
	（藻類）	EbC_{50}(0-72hr)	16 mg/L
残留性・分解性	情報無し		
生体蓄積性	情報無し		
土壌中の移動性	情報無し		

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

１４．輸送上の注意

国際規制

国連分類	クラス3（引火性液体）
国連番号	UN1993
品名	その他の引火性液体（他の危険性を有しないもの）
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質	該当

国内規制　輸送に関する国内法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

輸送の特定の安全対策及び条件　輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輌、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。引火性液体なので火気厳禁。

１５．適用法令

農薬取締法　農薬

消防法　第四類第二石→危険物第四類第二石油類

労働安全衛生法（安衛法）　第57条の2第1項 施行令第18条の2別表第9 名称等通知すべき有害物（ﾏﾗｿﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ）

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）　第2条第2項、施行令第1条別表第1、第1種指定化学物質（ﾏﾗｿﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

海洋汚染防止法　施行規則第30条の2の3、国土交通省告示 個品輸送 海洋汚染物質

船舶安全法　危規則第2,3条危険物告示別表第1 引火性液体類

航空法　施行規則第194条危険物告示別表第1 引火性液体類

１６．その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・

用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。